□□□□□□□□□□ □□□□□□□

東京地方壮年連合通信 vol.73

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN ２０１７年３月１５日

研修会特集

東京地方壮年連合会長　山田誠一

2017 年 2 月 18 日（土）大久保バプテスト教会にて、西南学院大学神学部教授の松見 俊 先生を迎えて東京地方壮年連合主催の第 21 回研修会が開催されました。23 教会から 57 名の参加があり大変有意義な集いでした。また、昨年度の研修会から意見交換を重視し、座席の配置を楕円形にし、顔が見えることでより活発な話合いになっていると思っています。

発題:『バプテストの発展は？ 牧師、信徒のリーダーシップによる！』
講師: 西南学院大学神学部　松見 俊 教授

詳しい講演内容までは掲載できませんが、先生のテキストの大項目は以下の構成となっています。

1. 牧師の意識変革の必要性
2. 信徒(執事)たちの意識変革の必要性
3. バプテスト教会形成における牧師と信徒たちの指導性の広がり
4. 教会の使命実現のプロセス　（ＰＤＣＡサイクルの適用可能）
   ＰＤＣＡサイクルは、企業や大学などでは、自主的に計画を立て、行動し、定期的に評価を受ける。いわゆる、PDCA サイクルを実効性あるものにする努力が求められます。基本的に教会においても適用できるとしています。(PDCA サイクルの流れを２ページに掲載します。)

バプテストの教会形成に興味を持っている方々がたくさん今回の研修会に参加してくださいました。その中から 2 名の方に感想文を寄稿していただきました。みなさんの教会での活動に少しでも参考になれば幸いです。

席上献金 45,130 円は、仙台長命ヶ丘教会を中心とした支援活動の復興支援金として献げました。感謝いたします。

【PDCA サイクルの流れ】

Plan(計画)Step1：方針と到達目標を設定する。Step2：到達目標の達成度、進捗状況を測る「評価指標」を設定し、それにもとづく客観的なデータを準備する。➔Do(実行)Step3：各会、委員会、執事会、教会学校で実行する。➔Check（自己点検評価)。Step4：毎年自己点検評価を行う。必要であれば。Step5：外部の第三者評価を行う。➔Action(改善) Step6：評価結果を受けて、改善案を作成し、計画の見直しを行う。

第 21 回壮年研修会に参加して

川崎バプテスト教会（神奈川）　渡邉　亶（わたなべ　まこと）

２月１８日、東京地方壮年連合主催の研修会のご案内をいただき連合の枠を超えて出席しました。

当該連合がこの間、「信徒の教会」と呼ばれるバプテストにおいて、自覚的、主体的に教会形成を担う信徒を問う研修会を地道に開催して来ていることに大いに賛同し、その働きに敬意を表します。その理由は当日の松見先生の講演のテーマとなった「バプテストの発展は？　牧師、信徒のリーダーシップによる！」に表されていると思うからです。さらに加えれば、牧師、信徒のリーダー（当日は執事をイメージされていた）だけでなく、信徒一人ひとりのバプテストとしての信徒理解が、どこまで、どのレベルまで共有されているかが重要課題となっていると思うからです。幼児洗礼を拒否したバプテストは、その時から互いに教育の務めを負う者の群れとなりました。従って、この研修会に参加した者が各教会において、今回学んだことをどの様に展開してゆくのかが、わたしを含めて問われていると思わされました。

また、松見先生の講演の、“信徒（執事）たちの意識変革の必要性”の中で、『キリスト者の奉仕を考える際に大切なことは、イエス・キリストがまず私たちのために奉仕をしてくださったのであり、わたしたちが神や他の人びとに奉仕することなどできないということを自覚し、しかし、そこから押し出されて奉仕へと促されるのであるという「断絶を媒介にした連続性」への洞察である』との指摘に、特に心動かされました。　自覚的、主体的信徒として教会形成を目指すバプテストにとって、ともすると陥りがちな、“無力さの自覚なしで他者への奉仕をする者は、他者の尊厳を傷つける者である”という罠に陥らぬための厳しい警告と受け取りました。

最後に、私たちのこれからの歩みに、おおくの示唆を与えてくださった研修会開催の関係者に心から感謝します。　（完）

真剣な質疑・応答に、バプテスト教会の輝ける未来を見る

―第 21 回壮年研修会に参加して―

経堂バプテスト教会　石橋寛祐（いしばし ひろすけ）

私は単なる聴講のつもりで、役員の方からの出席案内を受け実に 6 年ぶりに参加した。第 13、14 回と熱心に参加していた。　2009 年 2 月、西南学院大学・バークレイ学長の研修会が最後であったように記憶する。東日本大震災を機として、善良な市民までも、無差別殺戮に等しい危害を与える地球、創造主が造り給うたというすべてのものの実態に、主イエスのみ言葉、更には聖書にまで疑問を抱くに至り、「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや」の親鸞聖人の教えに走りもした。以後、恰も宗教評論家のような言葉を吐いていた。私の信仰遍歴、もう 30 年も前になるだろうか、スイスのジュネーブ大学の外壁に立つ、宗教改革四聖人の像を仰ぎ、西欧文化理解のための聖書濫読から、信仰の学びへと変わり、祈り誓ったあの日々を回顧し、‘これではいけない’と反省を繰り返していた。異端者の如く教会を去り、執事選出に、万票で応えてくれた仲間をも裏切り、逃げていたのだ。異端者・異邦人・サタンが自分であった。因果の報いか病魔は襲い、性格の悪さ、口の悪さ、頭脳の悪さを加えると実に 14~15 の病名がつく。正に悪名の末期高齢者と成り果てた。

正直に言うと、松見先生のお話は、耳まで老いた私には余り良く聞こえなかった（講演会はもう少し音響を上げる様に要望）。ただ、最後の質疑応答に、若い？といっても、壮年信徒の皆さんの熱意ある質問に、輝かしいバプテストの未来を感じ、意を強くした。以前、渋谷教会だったと思うが、研修会の講演で“神はおわします、それは教会に、礼拝堂に…”という言葉を聞いたことがある。

万人祭司、各個教会主義の言葉は繰り返される、が、それは方針であり、制度であり、バプテストの精神である。それを自分の教会で如何に生かして行くか、それが信徒に課せられた命題である。

今回の参加者の熱心な討議に、新しい姿を見たような氣がした。私も老いの身に鞭打って、終焉の日まで信仰に導かれたいと再認識した。いや、考えさせられた、そんな研修会であったと思う。信徒の祈りと、神の学びに栄光あれ！

研修会風景（椅子を楕円形に配置しました）

講師の松見 俊 先生

質疑の時間

◇ 2016 年度神学校献金（目標 500 万円）のお願い◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。本年度も残り少ないですが、500 万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

発行人：東京地方壮年連合会長　山田誠一
編集人：中村茂